

別紙②

運営推進会議開催報告書

会議名 大野和光園なかよしデイサービス運営推進会議
施設名 大野和光園なかよしデイサービス
サービスの種類 認知症対応型通所介護
会議開催場所 大野和光園 会議室
開催日時 平成 30 年 7 月 18 日

<運営推進会議出席者>

構成区分	氏 名	備 考
利用者の家族	山田 勇 様	
利用者の家族	廣瀬 ゆきゑ 様	
地域住民の代表者(篠座 2 区副区長)	清水 勇治 様	
地域住民の代表者(大野地区民生児童委員)	松浦 公子 様	
大野市民生環境部 健康長寿課	清水 幸恵 様	
さくら在宅介護支援事業所(管理者)	三浦 朋子 様	

<施設職員出席者>

職 種	氏 名	備 考
理事長	砂子 三郎	
常務理事	山村 正人	
施設長(管理者)	松山 佳予子	
相談員兼介護員(主任)	笹山 美喜男	
相談員兼介護員(副主任)(書記)	堀 亜住	

<議事録>

- 1 大野和光園 理事長挨拶
- 2 会議出席者の紹介
- 3 運営会議要綱の説明
 - ① 会議開催の目的
 - ② 運営推進会議とは
 - ③ 会議の構成メンバー
 - ④ 大野和光園基本理念
 - ⑤ 大野和光園倫理綱領
 - ⑥ 認知症対応型通所介護とは?
 - ⑦ 地域密着サービスとは?

⑧ 認知症対応型と普通の通所介護の違い

4 活動状況報告 *別紙参照

- ① 平成 29 年度上期活動状況
- ② 平成 29 年度下期活動状況
- ③ 平成 30 年度上期活動状況
- ④ 認知症の生活自立度別利用状況
- ⑤ 空き状況 居宅介護支援事業所別利用登録者
- ⑥ 延べ人数平均介護度
- ⑦ なかよし利用者の推移(平成 22 年度以降)
- ⑧ サービス活動収益と人件費の推移(平成 25 年度以降)
- ⑨ なかよしデイで過ごす 1 日
- ⑩ ご家族の皆様への情報発信

5 質疑応答・意見交換

Q 常時3人の職員がいるということで人件費の比率が上がっているのか。

A 和光園全体の人件費が74%と上がっている。非常に厳しい現状だがやりくりしてやっている。社会福祉法人は利益を追求する団体ではないがなかよしデイだけで見ると赤字の状態である。制度改正もあり、居宅系のサービスは厳しくなっている。

◎なかよしデイと普通のデイの違い

人員配置が手厚い他に入浴時には家庭にあるようなユニットバスを使用してゆっくりと入浴して頂いている。大人数のデイではどうしてもざわついた中でのケアになってしまいがちだが、なかよしデイでは認知症の症状緩和のために静かな環境の中で個人に合ったケアが提供できている。

◎なかよしデイでの最近の取り組みについて

園内散歩やふれあい公園の散歩、市役所の展望回廊の散歩などの機能運動をメインに取り入れている。下肢筋力の低下を予防する事で利用者の自宅での生活が安定したり、家族の介護負担の軽減を図ることが目的である。ふまねっと運動も行っていて、認知機能の低下予防効果もあり、利用者も楽しんでやっている様子である。その日の利用者のレベルに応じて個別に対応しレクリエーションを提供している。

Q 要介護3の方が多く利用されているとのことでしたが、一番多く利用されている方は週何回の利用ですか？

A 週5回。

◎要介護度2で認知症状があり、身体は元気なために徘徊があつて困っている。自分は仕事を続けたかったが今は出来る状態ではない。目が離せない。(利用者家族)

◎今年からなかよしデイを利用しているが、おばあちゃんが変わってきている。気が強く、前は家に二人でいると喧嘩が多かったが穏やかに過ごせる日が多くなってきた。デイサービスに通い、人の中に入ったのが良かったのだと喜んでいる。(利用者家族)

◎在宅の家族の中には誰にも相談できずにギリギリまで自分たちだけで頑張っているケースが多い。よくこの状態で在宅生活をしていたなど思うこともある。ケアマネ自身も一緒に家族になって支えることができるわけではないので地域のサービスの力が本当に重要になってきている。老々介護も増え、介護者側が倒れかねない状況もある。介護者側が元気である事が利用者にとっては一番良い事であり、早期のサービスの利用が大事だと感じている。

◎今の時代、若い家族だけで介護する事は困難である。隣近所、民生委員、地域全体で目をかけ、声をかけて助け合わなければならない。

→健康長寿化が65歳以上の独り暮らしの方の名簿を作成し民生委員の集まりに送っている。情報を共有し協力をお願いしているところである。

6今後の予定及び次回会議について

次回:平成31 1月16日(水) 10:30～ 開催予定